

## はじめに

昨年来の「新型コロナウイルス感染症」は、1年6ヶ月が経過した今なお収束することなく、新たな変異株の出現により、更なる感染拡大が懸念される状況にあります。多くの医療機関では、新型コロナウイルス感染症対策に取り組みつつ、日常の医療提供体制をできる限り維持するための取り組みが進められています。

当院においても、院内での感染症対策はもとより、発熱外来の設置や新型コロナウイルス感染者の入院受入体制を確保し、公立病院としての役割を果たしてきたところです。

経営面においては、新型コロナウイルス感染症の影響による患者の受診控え等もあり、入院、外来ともに患者数が大幅に減少し、令和2年度当初予算に比して医業収益は11億2千万円の減収となりましたが、国・府の新型コロナウイルス感染症対策等に係る補助金や市からの繰入金により、令和2年度純利益は4億1千万円の赤字となり、累積赤字は121億6千万円となりました。

当院は、既に北大阪急行線の延伸により新たに整備される「箕面船場阪大前駅」の近くに新病院の移転建て替えが決定しています。本年2月に第1回新市立病院整備審議会を開催し、同審議会に新病院が担うべき役割や機能等について諮問し、新病院整備へ向けた検討に着手したところです。

今後、新病院を整備するにあたり、職員とともに、新型コロナウイルス感染症といった新興感染症への対応をはじめ、市民の健康と安心のための医療を提供する病院、地域医療の要としての病院となるよう、その役割や機能、規模の検討を進めるとともに、将来にわたって安定した運営が行えるよう財政の健全化に向けた取り組みを進めてまいります。

この度、病院の基本理念を改訂いたしました。

**「地域の人々の健康を支え、安らぎのある環境の中で、  
患者中心の、安心安全で質の高い医療を提供します。」**

この新しい基本理念の下、市民の皆様に安心していただき、信頼を得られるよう、より質の高い、親切な医療サービスの提供を心がけ、今後とも職員一丸となって取り組んでまいります。

令和3年（2021年）7月

箕面市病院事業管理者 大橋 修二  
箕面市立病院長 岡 義雄